

第3回 香美町部活動のあり方検討委員会 会議録

日 時：令和7年11月26日（水）10:00～

場 所：村岡地域局3階 301会議室

（出席）

委 員：9名、教育長

事務局：7名

（欠席）

委 員：4名

1 開会

2 あいさつ（教育長）

3 協議事項

（1）香美町部活動の地域展開に関するアンケートの結果について

事務局：アンケートの結果について説明

（2）部活動地域展開の時期について

委員：9年でも10年でも、実際、今の小学生に関してはほぼ関係なくなる話であって、準備する指導者がいないと全く前に進まないとと思うんです。指導者を募った上でになってくるんで。計画立てても多分かなり遅れてくるし、指導者が少ないとと思う。その辺を十分考えた上で、もう一つ踏み込んだ考え方をしておかないと、多分しんどいじゃないかなと思いますし、外部指導者が引き継ぐんであれば嫌だというような意見もありました。その辺も次の段階ですけど。ご父兄の送迎が5割ないんです。その辺も踏まえた上での実施計画を立てていった方がいいんじゃないかなと

委員：前回のときに、中学校の部活も残しつつ、地域展開っていうお話をあったと思うんです。今の話だったらもう100%の地域移行を前提で提案されたと思うんですけど。

事務局：今まで中学校の先生が顧問で入ってましたけど、それを一旦切り離して、指導者としてそこに入って、そのチームを運営していただく責任者になる。これ地域連携という形になります。完全に新しいものに作り変えるというのもあるんですが、今ある既存のものを残しつつ、そこに新たな指導者に入っていただいて責任を持ってそのチームを運営していただくという。

委員：その場合先生は、学校職員として指導者になるんですか。

事務局：学校職員という立場じゃなく、地域の方ということで入っていただきます。学校

というものからは外れて活動をしていただく。

委員：これ今、準備でき次第となってるんですけども、どういう準備があるのかよく見えてこない。どこまでどういうことができたら準備ができた。というふうな形になるのか全然わからないんですけども。

事務局：まずは指導者がおられるということ。その人が責任を取って運営していただく。

こちらとしては、その指導者の方に許可をする。研修をしていただく必要もありますし、教育委員会が許可を出して指導者になっていただいて、その人が運営の組織を作つていただくことが確認できることが準備できると思ってます。

委員長：チームありきではなく指導者ありき。まず指導者からかなとは思っています。今ある部活動をベースにしても良いし、もちろん新しいものを立ち上げても良い。簡単に言うと、学校から切り離せたら準備です。今は学校という母体の中に部活動がある。それが学校と切り離せて、新たな運営母体ができて活動が回るということが準備が完了したこと。それには、いっぱい条件は出てくる。ただ、運営母体が、今後は保護者とのやり取りを全部していくわけですから、それも含めて運営母体がスタートを切つてから考えていくこともあるだろうと思います。だから、学校から切り離された段階が、準備が完了いうふうにとらえてもらったらと思います。

委員：任命自体は教育委員会がする。

事務局：今の外部指導員の流れはそうなるんですけど、今はっきり言つてはいけないとこでした。運営母体をどうするのかがあるので。教育委員会がっていうのはあくまでも学校に入る外部指導員のイメージでした。

委員長：本来はNPOが運営母体を作つてもらうと学校は離れるが、日本の半分以上のところはそれができない。だから教育委員会が今動いてるのが現実。自治体が本来はこれを地域として動かしていくことが基本線なんだけど、難しいからそこを今、教育委員会がしてると思っています。

委員：学校から離すことが決まってるのなら、あとはどんな準備をしていくかっていうことです。考えて、それに取り組んでいく。学校の先生はあくまで指導員。お金が発生しますから学校の業務ではなくなる。先生はもちろん地域の人もこれから集めなきゃいけない。

委員：さっき指導者の責任と言われてましたが、他地域でも、何かあったときに誰が責任取るんだっていうことでなかなか指導者が二の足を踏んで、そこがすごくハードルが高くなっている。でもそうなってくると、責任っていうのはもうそれこそ保護者が責任者になる。少年野球のクラブだって保護者が最終責任っていうふうな。自分の意思で入れてるわけだから、多分そうだと思う。汚れたときにどうのこうのってなったら指導者に

なる人は多分ないと思うんです。学校の先生が個人で指導者になられた場合っていうのは、ついつい親御さんって、先生でしょって。どうしてもそういうふうな認識を外してあげないと。だから整理することはいっぱいあると思います。

委員：今ここで協議されてる地域展開の年度について、推測ですが、準備せんなもんが何があるんかが洗い出されてない状態で、その準備にどれぐらいかかるかっていうのもわからない状態で展開の年度を決めるっていうのはすごく危険。自分の中でもやっとしてるんですけど、今回アンケート取って、自由記入の部分で吐き出されてる方もたくさんおられると思うけれども、少なくともそれ100%まとめるっていうのは不可能だとは思うんです。叶えられそうな大きな問題をまずは抽出して、それにどれぐらい期間かかるのかっていうことを、改めてこの場でも考えさせてもらってからじゃないと、地域展開一つにするっていうのはすごく出しにくいのかなと思います。小中学校の保護者もよく知っておられて、意見の中には、もう少し町として説明してほしいと。説明会を踏んで改めて課題を抽出して準備して、それにどれぐらいの期間かかるか、そこからじゃないとなかなか地域展開する年度を決めようと思っても、少し難しいのかなと思います。その過程でどんどん時間が流れていっちゃうのも、それはそれで大きな課題かもしれないけれど、この場でいつにしようっていうのを決めるのは、ちょっと怖いなって思います。

事務局：それがここ数年の課題として。説明会はする必要があるとは常々思っています。ただ、今説明できることが少なすぎて説明できない現状がありました。このあり方検討委員会を立ち上げるにあたっては、今年のテーマは二つ。まずは地域展開の時期、ここを何とかここで考えていただく。そしてその推進計画を、今年度中に何とか策定して、来年度の4月以降に地域の方々にお伝えできるようにしたいというのが今年の1年間のテーマです。いっぱい意見を集めていいものを作りたいとは思ってはいるのですが、昨年もこのような感じでときが経ち、何とか今年は形にして町民、職員、子供たちにスケジュールを伝えたい。というふうに思っているところです。

委員長：10年の8月や10月は新聞に出て、但馬3市2町がここからは最低限キープしようっていうところを今するのが日程なんで、もちろんこの間にこれからスケジュールがでも出てくるとは思いますけど、保護者には何らかの格好で、8年度中には1枚、今の段階の様子を小学生と中学生に、こういうふうに計画してますということは、できたら8年度中にはしたいと想定してます。このぐらいをめどにこれから進めますよということをここで了解してもらえば、それに向けてスケジュールを考えて、条件を一つずつ整理して、このときまでにこれをということを。スタートを切るところを決めて、それに向かいたいっていうのが今の考え方かなと思う。事務局の。

事務局：近々、新聞に香美町は年度内に時期の決定であるとか推進計画を策定するということでお出る予定です。中体連は地域のチームが入ってくれるように門戸を広げると言っ

てます。

委員：どこかのタイミングで、部活動が参加する大会がなくなるというわけではない。

委員長：全国大学は減らしている。競技は減っているけど、県は残したいのが現状であつて答えは出でない。全中がなくなれば近畿もない。

委員：モチベーションの一番ってそこですもんね、多分。中体連組織が完全にゼロになるのかと思っていましたが、ならないようですね。

委員：今日の委員会の予定としまして地域展開の時期について提案ということですから、時期決定はやっぱり指導者が一番大きな問題だということがあります。最終的に一つ、地域をまとめた形で時期を決める前の前に、準備として、実際の指導であるとか、場所はどこでやるのか。例えば今3個ある中学校のそれぞれの学校でやるのか、あるいは一つでやるのかというような場所の問題、それに伴う送迎、課題がいろいろある。次の委員会では、課題を収集していただいて、それに向かってどういうふうにアプローチ、問題解決に向かって議論を深めていくのかということを示していただいて、我々も検討委員会として議論を積むというやり方はどうでしょう。

委員長：ここを決めてそれに向かうっていうタイムスケジュールの取り方を但馬はし始めたという話をしました。香美町はここから順番でいきますということが果たしてできるか非常に難しいところがあります。それから、まず部活動を決めて指導員を決めるのも難しいです。ものの考え方としたら、指導者がいなければその活動はできないです。アンケートであっても、用意できたものでスタートを切るというのが、この地域展開の一番大きな点じゃないかなと國も私達も思っています。この時期を聞くというのは、それが大きなウエートだと僕は思っています。

委員：学校から切り離してというのは、想像しただけでもすごいハードルが高いと思うんです。条件を決めてというのは分かるんですけど、いつになっても平行線だと思います。僕も、時期は確かに危ういのかもしれないんですけど、決めておかないとスケジューリングの仕方がすごく難しくて、どこかで大きな判断をしないといけない時が来ると思うんです。運動したい人だけしてくださいっていうパターンもあり得ると思うんです。本当に学校と切り離すんだったら。それも踏まえて、他市町が令和10年中と言うのなら、まだ数年あるんで。一番は指導者ですよね。最終判断ができる時期で決めればいいと思います。個人的な意見ですが。他市町に合わせて、令和10年でいいのかなというのが僕の意見です。

事務局：このスケジュールに向けて手を挙げていただくとかいうやり方でないと、なかなか募集が難しくて、今、集まったところからスタートしますというのもイメージはしてみたんですか。これを目指して指導者の方が手を挙げてください。このスケジュールでいきます。というような期間をある程度区切ってやっていくしかないと。そこで集まる

集まらないはもちろんあるんですけども、難しいなというのが正直ある。できれば、この予定でやろうと決めていただきたい。というのが事務局の思いです。

委員：地域展開の一番難しいのは、当事者意識をどう受け植え付けるかだと思う。つまり指導者を集めるのも、地域がしなきゃならないという当事者意識を。アンケートを読んでも、やっぱり、してもらうという書き方が多い、親の負担が大きいとある。だから、それは当たり前なんですよと、そういう意識を少しでも変えていけるかどうか、そこがポイントかなと思います。中学校の先生は、すごく自分で何でもされてきた。例えば練習試合なり、対外試合なり、中学校の先生自身が来る。送迎もありました。実際に我が子が入ったときにそれまで知らなかつたんで。やっぱり出されるおうちも決まってくる。その辺の意識が、やっぱり中学校の部活はしてもらってる。それが何十年も続いていて自分たちがしなきゃという意識に切り替えるのが一番難しいんだろうなと思います。日本全国どこでもだと思いますけど。

委員長：77年の歴史を今変えようと協議してる。みんなが部活動を経験してきた人間ばかりなんです。今からする人に向かって、学校がしてきたことをこれからどうしていくか。今日は時期を決めるということで、このあたりをめどに但馬が進んでるんで、香美町も10年の8月なり10月には地域展開できるように、これからタイムスケジュールと課題を拾い集めるというところで了解をしていただけたらありがたい。それに間に合うようにはしようという動きになる。こっちを先に決めて、こちらから対応スケジュールを組むという方針で進むことに関しては知っておいてください。これから課題1個1個に関しては、ここでまた持ってきて進めていこうと思ってますので、時期としたら大体10年度の夏ぐらいにはうちも地域展開ができるようにタイムスケジュールを組むということで了解してもらったら、今日の会はとりあえずは良いかなと思うんです。ここからっていうのを決めないと、話が前に進まない。

委員：新聞に出ないとしても、何らかぼんやりとでも10年ぐらいにっていうのは。ここだけではなく。指導者になられる方も、保護者、子供たちも、このぐらいから香美町はあるぞと。多分10年ぐらいがめどだというのをぼんやりとでもお知らせしないと今日決めた意味が。

事務局：今日のこのお話は町のホームページに委員会の議事録で上げますので。今の令和10年夏、秋。

委員長：令和10年夏あたり。

事務局：令和10年度に地域展開することは、今日の議事録で必ず載せます。

委員：学校で言うと、職員にも必要です。

委員：令和10年の夏ぐらいをめどにという、そう言われてる自信というか根拠というか、

そこは説明しないと他の委員さんも収まらないと思う。根拠ですね。令和10年の夏ぐらいにスタートさせる目標とする根拠ですね。おっしゃっていただかないとちょっと変えられない。

事務局：10年の良い点としては、但馬内で足並みをできるだけそろえさせていただきたい。事前にやるとすれば調整も必要になってくる。同時にスタートしないと、町内だけで活動する場合はいいんですけども、町外にしかないチームに行く児童生徒が出てきた場合は、その調整が必要で、なるべく足並み揃えた方が他の市町ともやりやすいというのが一つ。あとは、次年度の8年度から、広報等をさしていただいて、募集をかけて、なるべく先行実施できるものを作りたいです。全てを一斉にするのではなく、先行実施できるものを探っていきたい。それが8年度中に準備して9年度には先行実施。10年には、本格実施という段階を踏むとすれば、どうしても令和10年が最短ではないかと思っています。

委員：指導者や運営、申し込み団体の見通しというのはどうなんですか。自信あるんですか。

事務局：ないです。

委員長：用意できるものはするけど、できないものはないです。他の町ですがダンスクラブ三つ。なんで一つにしないのか、それぞれ違う指導者がそれが永久的にずっと続くなどうかわからないけど、スタート段階で3人の人がそれぞれ違うダンスをするっていうことになるから。もうまさしくこれだと。学校の先生、小学校の先生にも声をかけるので、いくつか今の部活の延長上のものが残っていく、40数%ですよ。プラス地域に声をかけてボリュームを出す。でも、作れるのを待っていたら先に行けないので、できたものでスタートを切っていきます。香美町で絶対入ってくださいじゃない。見てもらったらわかるように、20%ぐらいしたくない子はいるんです。今までの部活動みたいに強制的に入れる作業は絶対ないです。完全に学校じゃなくなりますので、用意できたものでスタートを切るってのは基本にある。もちろん努力はします。ただ無理なものはこの人材不足の中で約束はできない。今の香美町の中で子供が書いてるもの全部は用意できないかなと思ってます。運営母体ができたら、活動日はその団体でお話をしてもらうしかない。そこはもう指導者とのやり取りの問題というのが、およそのことかなと思うんです。でも、ここに書いてあるのは何とか揃えたいなとは思ってます。今の部活動を何とかしたいとは思うんですけど、頭に置いといて欲しいのは、1人では絶対できない。多分3人ぐらいは準備していかないとおそらく難しい。最低でも2人はいります。その辺りも含めて一つ一つ課題を解決しながら、但馬3市2町を意識しながら、ある程度進めていこうと思っています。

委員：学校が今までしてきたことが、何を説明したら、すっと地域に移行できるかという

のは、時間がかかるだろうと思う。

委員：一つだけ確認ですけど、さっき職員に言ってもいいっていうふうにお話があって、多分、職員に言ったら、地域にも広がる。もちろん地域の代表の方もおられるので、ホームページに載せるタイミングと揃えた方が良くないですか。

事務局：いやそれは難しいです。ホームページとあわせるのは。

委員：もうそれが出る前に言ってもいいですか。

事務局：はい。10年度中で。

委員：では、10年度中で。

委員：地域展開の時期の決定というのを、今話しているんですけど、これは2月の協議事項で、2月の協議事項を今やっているように思うんですけど、前倒しですか。

事務局：こちらの不手際です。申し訳ありません。

委員長：神戸新聞が但馬全部の3市2町を取材してまとめたい意向を聞いてるんで、ホームページがOKだったら10年度を出してもらいましょうか？この後、今週中に出ますけど一応了解してもらって。

委員長：委員からもありましたように、記述がずれているところがありますけど第3回目では10年度に地域展開を実施しますという話を、あり方検で確認をしました。新聞にもホームページにも出しますというところが今日の最終の議論です。

(3) 次回協議事項について

事務局：次回協議事項についてですが地域展開の方法について協議していただきたいと考えています。一つ目は休日からの段階的な展開とするのか平日も含む一斉の展開とするのか、その令和10年夏ごろ、これを目途に一斉に平日から地域展開するのか、それとも休日だけまずは地域展開するのかということ。二つ目は、地域展開の方法についてです。方法については三つの方法を記載しております。地域連携型、地域展開型あと地域展開と地域連携のハイブリッド型の3種類です。また、どの形になったとしても、学校教職員が顧問で学校長が責任を取るという、これまでの形とは変わって、部活動というあり方はなくして、各団体の指導者が責任者となって活動の運営を行っていただく形に変わります。これまでの部活動を廃止して新たな地域団体、地域クラブとして活動していくということになりますので、よろしくお願ひします。次回は1月の中旬ぐらいでお願いできたらと思うんですが、また日程の方を決めさせていただいてよろしいですか。

委員：協議の内容の1に加えまして、地域展開するための課題と、その課題に向けてのア

プローチの方法について、そういうこともあわせて、説明ないし協議事項に加えて欲しいです。これは副委員長としてお願ひします。

事務局：わかりました。課題については、こちらでも出しますが、もしお気づきの点がありましたら言っていただいた方がこちらとしてはありがたいです。それぞれの立場なり、それぞれの視点から事務局の方にお伝えいただけるとありがたいです。お願ひします。

委員長：それでは第3回をこれで終了させていただきます。4回目は1月の中頃ということがありますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。